

「熊野古道」を歩く

—藤原定家
「熊野御幸記」とともに—
紀伊路、中辺路

おさだ かく
長田 格 Kaku Osada
2024. 9. 7



背景

調べる—歩く—書く

- 2015年、電子出版を始める。
 - ・ 南京シリーズ。4冊。日本、歴史、詩、暮らし
 - ・ 中国旅シリーズ。4冊。
 - ・ 横浜シリーズ。2冊。境界、山
 - ・ →横浜歴史研究会
- 2022年、紙出版開始。全13冊
 - ・ 日本歴史旅シリーズ
 - ・ 「おくのほそ道」を歩く その1、2、3
 - ・ 熊野古道を歩く その1

長い歩き+歴史

- 2015年、熊野古道小辺路
- 2017年、四国遍路開始。3年で完了。
- 2020年、おくのほそ道歩き開始。3年で完了
- 2023年、熊野古道紀伊路、中辺路
- 2024年、熊野古道大辺路、伊勢路

日本の三大歴史的長距離歩道

おくのほそ道

四国遍路

熊野古道

サンチャゴ・デ・コンポステーラ
の巡礼路

ただ二つの道の世界遺産

目次

• 概要

「熊野古道」とは

- ・ 世界遺産、熊野三山、歴史

私の旅

藤原定家と明月記

• 詳細

紀伊路

中辺路

• 付録

参考文献他

• 注

- ・ 写真はすべて私が撮ったもの
(私が被写体のものを除く)
- ・ 地図はgoogle mapまたはyamax

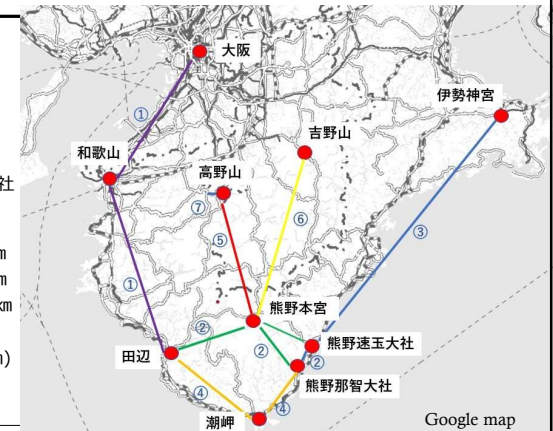
熊野古道とは

熊野三山をめぐる参詣道

- ①紀伊路 大阪～和歌山～田辺 150km
- ②中辺路 田辺～熊野本宮～熊野速玉大社
～熊野那智大社～熊野本宮 150km
- ③伊勢路 伊勢神宮～速玉大社 170km
- ④大辺路 田辺～湖岬～那智大社 120km
- ⑤小辺路 高野山～熊野本宮 80km
- 合計 670km

(⑥大峯奥駈道 吉野山～熊野本宮 80km)

(⑦高野山参詣道 町石道ほか)



Google map

熊野古道各道の概要

辺路：「へち」、紀州語で縁（へり）の意

	難易度			世界遺産	
紀伊路	前半◎ 後半○	前半：街歩き 後半：中間	前半：車が多い。 歩いている人はいない	—	
中辺路	△	山道	外国人、ほとんど西洋 人が歩いている	○半分以上	熊野川を含む
伊勢路	○	中間的、海	人はほんの少し	△2,3割	
大辺路	○	中間的、海	人はまれ	△1割以下	
小辺路	×	本格的な山道 1000m級	人はまれ	○半分以上	
(大峯奥駆道)	××	修験者の道 2000m級	人はまれ	◎大半	

世界遺産：紀伊山地の霊場と参詣道

2004年登録（2016年追加）

< 3 霊場 >

- **吉野・大峰**
吉野山、吉野水分神社
金峰神社、金峰山寺等
- **熊野三山**
三大社
青岸渡寺、那智大滝、那智原始林等
- **高野山**
丹生都比売神社、丹生官省符神社
金剛峯寺等

< 6 参詣道 >

- **大峯奥駆道**
- **高野参詣道**
 - 町石道
 - 三谷道、京大阪道不動坂、黒河道、女人道
- **(熊野参詣道)**
- **中辺路**
- **小辺路**
- **大辺路**
- **伊勢路**

※紀伊路は含まれない

6

熊野三山とは

熊野本宮大社

- 崇神天皇65（紀元前33）年創建
- 熊野川の中州に三体の月が降臨、主祭神、家都美御子大神（＝スサノオ）。
- 奈良時代に仏教を取り入れ、熊野権現となり、阿弥陀如来とも同一。

未来

熊野速玉大社

- 神代の頃、ゴトビキ岩に降臨。（→現神倉神社）
- 景行天皇58（128）年、現在地に遷す。このため新宮と呼ぶ。
- 主祭神は熊野速玉大神
- 薬師如来とみなす。

過去

熊野那智大社

- 神日本磐余彦命（カムヤマトイワレヒコノミコト、後の神武天皇）の東征を起源。紀元前662年、現在的那智浜に上陸。
- 那智の滝を見つけ、その滝をご神体として祀った。
- 仁徳天皇5（317）年、社殿を設置。
- 主祭神：熊野須美大神
- 仏教としては千手観音。

現在

権現：仏が化身して日本の神として現れること。またはその神の身。

7

熊野詣の歴史

- 11世紀後半、上皇たちの熊野詣が大流行。定式化も。
 - 白河上皇（1053～1129）。9回。
 - 鳥羽上皇（1103～1156）。21回。
 - 後白河上皇（1127～1192）。33回(34?)。
 - 後鳥羽上皇（1180～1239）。28回。
 - 第4回、建仁元（1201）年、藤原定家が随行。
 - 第28回、承久3（1221）年、3か月後承久の変
- **以後、上皇たちにかわり武士**
 - 北条政子 2回
 - 承元2（1208）年、建保6（1218）年
- **室町時代 庶民が盛んに参詣、“蟻の熊野詣”**
- **江戸時代 下火、主流は伊勢参り**

8

王子とは

熊野古道沿いに多くある小神社

- ・「王子」：熊野権現の御子
- ・熊野本宮参詣の予行演習
- ・12から13世紀にかけて急速に整備
- ・実際には休憩や宿泊の為の施設の意も
- ・紀伊路と中辺路
- ・九十九王子
- ・現在は跡だけが残っている場合が多い

五体王子

- 紀伊路
 - ・藤代王子
 - ・切目王子
- 中辺路
 - ・稲葉根王子
 - ・滝尻王子
 - ・発心門王子



藤代王子

藤原定家と『明月記』

生涯

- ・応保2（1162）年～仁治2（1241）年
- ・建仁元（1201）年10月、40歳（当時、正四位下か）、後鳥羽上皇の熊野御幸に随行
- ・熊野御幸から帰宅直後、勅撰和歌集の編纂、選者に。
- ・元久元（1204）年、『新古今和歌集』
自身のもは47首
- ・建暦元（1211）年、ようやく従三位に。（後鳥羽上皇との不和が原因？）
- ・嘉禄3（1227）年、最終官位：正二位へ。
- ・寛喜4（1232）年、権中納言となるも同年、罷免、引退。
- ・嘉禎元（1235）年、『小倉百人一首』

『明月記』

- ・18歳から74歳まで56年に渡る克明な日記を残した。（国宝）
 - ・漢文（カタカナ入）十和歌（かな漢字）
 - ・貴族たちの暮らし、政権争奪の有様等
- ・名称は、後世のもの。自身は「愚記」
- ・建仁元（1201）年、後鳥羽上皇の熊野御幸随行時の部分を『熊野御幸記』と呼ぶ。
 - ・「熊野道之間愚記」
 - ・雑用係＋歌会講師
 - ・上皇といっしょに歩くのではなく、基本的に先駆け

熊野御幸の詳細

日程

- ・10月1日 精進開始
- ・第1日（5日） 鳥羽（鴨川、桂川合流点）から出発。桂川、淀川を船で下り、渡辺（大阪八軒家）で上陸、天王寺泊
- ・第8日 田辺泊
- ・第12日 本宮到着、宿泊（16日）
- ・第14日 熊野川を船で下り、速玉大社参拝、宿泊
- ・第15日 那智大社参拝、宿泊
- ・第16日 本宮へ戻り、宿泊
- ・第21日 長柄（渡辺の少し北）から船に乗り、皆瀬（水無瀬、桂川途中、山崎手前）
- ・第22日 帰京（10月26日）

紀伊路 8日

中辺路 8日（累計16日）

紀伊路 5日（累計21日）

私の旅

全体 6期41泊

- ・小辺路 2015年11月11日～14日 3泊4日
- ・（高野山参詣道）
町石道 2020年6月30日
京大阪道 2020年7月1日
- ・紀伊路 2023年8月1日～11日 10泊11日
- ・中辺路 2023年8月12日 <台風のため中断>
9月17日～25日 9泊11日
- ・大辺路 2024年2月16日～22日 6泊7日
- ・伊勢路 2024年7月25日～8月8日 13泊14日

紀伊路から中辺路 19泊

本宮から新宮は、バスと船が半々程度。

それ以外は、すべて歩き。

- ・第1日 横浜出発、大阪八軒家から歩き始め、天王寺宿泊
- ・第11日 田辺到着、宿泊
- ・第12日 中辺路歩き始め
- ・第14日 本格的な山歩き開始
- ・第16日 本宮到着
- ・第17日 川下り、速玉大社（新宮）到着
- ・第18日 那智大社到着
- ・第20日 本宮到着

定家と私の旅

紀伊路、中辺路 大阪～本宮～新宮～那智～本宮

	移手段						移動日数		
	徒歩	馬	輿	船	バス	計	紀伊路	中辺路	計
定家	96km (28%)	125km (37%)	85km (25%)	34km (10%)		340km	8日	8日	16日
私	306km (90%)			15km (4%)	17km (5%)	340km	11日	9日	20日

※『藤原定家のイラスト旅日記』と、私の実測値・推測による

紀伊路



出発点：大阪八軒家（天満橋）

<紀伊路>

窪津王子

- 八軒家からすぐ近く
- 現在、新しい神社が立つ。
- 「渡辺王子」とも。「渡辺姓発祥の地」でもある。「渡辺」は、「渡しの辺」の意。このあたりに、瀬戸内沿岸最大級の港湾といってもいい渡辺津が存在した。
- 定家「クボ津に著く。王子を拝す。人々前後に会合。やや久しくして御船著く。御奉幣。御拝二度。（略）。里神樂了りて上下乱舞す。」



紀伊路 大阪市内

新しい道標



雰囲気のある部分も



四天王寺

- 一日目最後に到着。
- 1400年前、推古天皇元（593）年、聖徳太子が建立。日本仏教最初の官寺。ただし、現在の伽藍は皆再建されたもの。
- 定家「先陣して天王子に参りて西門の鳥居の辺りを徘徊す。少時して入御。金堂の舍利を礼す。（略）。窮屈により、今夜御所に参せず。（略）。この供奉、世々の善縁なり。奉公の中、宿運の然らしむ。感涙禁じ難し。」
- 定家「夜に入りて、左中弁奉書、題三首を給う。明日、住之江殿に於て披講あるべしと云々。窮屈の間、沈思する叶わず。」
左中弁：左大臣九条良経
披講：講師、朗詠役
- 定家は天王寺内には泊まらず（泊まらず？）、近くの自分の庄に宿泊。



金堂と五重塔

19

住吉大社

- 私は1日目夕方、定家は2日目早々に到着
- 全国2,300の住吉神社の総本社
- 神宮皇后が神宮皇后摂政11（211）年に、新羅遠征の成功が、住吉の三神の加護によるものと考え創建。
底筒男神、中筒男神、表筒男神(うわつつのオノカミ)
- 三神とともに、神功皇后自身も祀られている。本宮が四つあり、四神が対応。すべて国宝。
- 定家「次いで住吉の社に参詣。先達同じく奉幣す。始めて当社を拝し奉る。感悦の思い、極まり無し。」
- その後、里神楽、相撲。さらに和歌の会が催され、講師を務める。自分でも三首詠み、記録。
「あひおひのひさしき色も常盤にて君が代まもる住吉の松」
その後「尤も以って不便。三間の萱葺の屋。風冷く月明し。」



第3，第4本宮

20

仁徳天皇陵

- 2日目昼頃。現在のルート上にある。
- 定家は、王子の名前をすべて列挙、そこでの行事をこまごまと書いているが、仁徳天皇陵については、まったく触れていない。そのころ、もう、不明となっていたのかどうか。



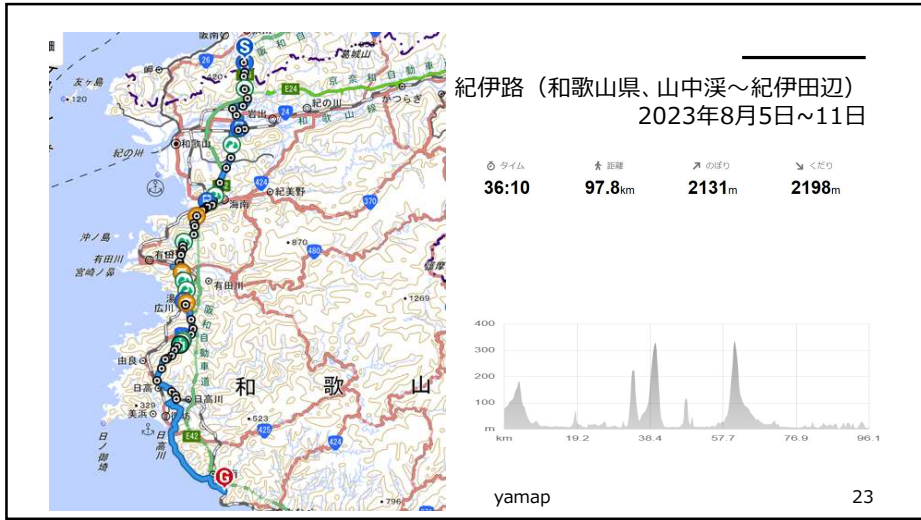
21

雄の山峠、和歌山県に

- 4日目の夕方、登り始め、馬目王子。5日目、すぐに中山王子。その後、雄の山峠となる。ただし、和歌山県との境は、その少し手前。
- 定家は、4日目「次でデウマ目の王子に参ず。次で中山の王子に参ず。」と列挙するだけ。国境などについて、意識はない。この頃も、ここまでが和泉、ここからが紀伊の国であった。



22



藤代王子（最初の五体王子）

- 7日目午前。定家は5日目朝。
- 現在は「藤白神社」という。
- 第12代景光天皇（4世紀前半）の代の創建。
- 主祭神は饒速日命（にぎはやひのみこと）。
- 定家「九日、天晴る。朝の出立、頗る遅々の間、王子に出ず。已に王子の御前に於て、御経の供養等ありと云々。営み参ずと雖も、白拍子の間、雑人多く立ち隔てて路無し。強（あなが）ちに参ずる能はず。逐電す。

24

日本遺産
絶景の宝庫 和歌の浦
藤白神社（藤白王子跡）

白神社は、熊野古道九十九王子の中でも別格の五体王子のひとつである藤白王子跡の、後から山道が崩れて、かつて熊野古道の道中であり、熊野古道の入口と考えられていた。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野古道の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。

海南市産業振興課 TEL: 073-483-0461
和歌の浦日本遺産活用推進協議会 TEL: 073-441-2424

日本遺産
絶景の宝庫 和歌の浦
藤白坂（熊野参詣道紀伊路）

熊野古道 崩落のため
通行不可

熊野古道は、熊野参詣の道中であり、熊野古道の入口と考えられていた。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。

海南市産業振興課 TEL: 073-483-0461
和歌の浦日本遺産活用推進協議会 TEL: 073-441-2424

日本遺産
絶景の宝庫 和歌の浦
藤白神社（藤白王子跡）

藤白神社は、熊野古道九十九王子の中でも別格の五体王子のひとつである藤白王子跡の、後から山道が崩れて、かつて熊野古道の道中であり、熊野古道の入口と考えられていた。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。熊野参詣の貴族に押し潰された神家の跡とされる。

海南市産業振興課 TEL: 073-483-0461
和歌の浦日本遺産活用推進協議会 TEL: 073-441-2424

25

藤代坂

26

藤代坂

- 頂上付近にある塔下王子まで、約1.7 km。標高250mほど。約45分ほどの登り。
- 定家「藤代の坂を攀じ昇る。道崔嵬(さいかい)殆(ほと)と、恐れ有り。又眺望の遼海。興無きにあらず」。ここはさすがに、馬を使えず、歩いている。輿はまだ準備がなかったか。
- 和歌の浦方面の眺めが素晴らしい。



27

湯浅

- 8日目着。宿泊。定家は5日目、宿泊。
- 古代より熊野街道沿いの宿場町として栄えた。現在も古い町並みが残り、重要伝統的建造物群保存地区としてある。
- 上皇はむろん街中に宿泊だが、定家は例によってそうはいかない。定家「御宿三四町許りを過ぎ、小宅の宿所に入る。(略)。先づ小宅に入るの間、件の宅憚りあるの由之を聞き付く。仍て騒ぎて出で、(略)」。こうして、水浴びをし、さらに潮垢離までする騒ぎとなった。
- さらにその後、呼び出しがあり、歌会。講師を務める。定家も二首。「深山の紅葉
こえたてぬあらしも深き心あれや
深山の紅葉みゆき待ちけり」



28

大峠、小峠



29

大峠、小峠

- 9日目。定家は6日目。
- 全体で2時間ほど、標高約350m。
- 定家「次で又シシノセノ山に攀じ昇る。崔嵬険阻、巖石昨日に異ならず。此の山を超えて沓カケノ王子に参ず。」
- このあと定家「此所に於て、上下木の枝を伐り、随分樋を造る。榊の枝に付け持ちて参ず。内ノタノ王子。各々之を結び附くと云々」次の内ノ畑王子がツチ金剛童子と言ったらいい。



30

切目王子（二番目の五体王子）

- 10日目夕方着。定家は7日目。
- さすがに五体王子。現在も広々とした境内。
- 上皇はこの中に御所。
- 定家はその前の宿所に入ったが、「**最も狭小、海士人の平屋なり**」。
- さらに「晩景に又題あり。即ち之を書き、持ちて参す。戌の時許り（午後8時頃）に、例の如くに召し入れらる。歌を読み上げて了りて退出す。

うちもねずとまやに波のよるのこゑ
たれをと松の風ならねども

眺望の海、甚雨にあらざれば、興あるべき所なり。**病氣不快。寒風枕を吹く。**」



31

紀伊田辺

- 11日目着。定家8日目着。
- 紀伊路終了、ここからいよいよ山へ入り、中辺路となる。大きな街であり、一区切り。「味光路」。
- 定家には、そのような感慨はない。しかし、御所はやはり、大きなものであったようだ。「又先陣し、田辺の御宿を見、私に宿所に入る。御所美麗。河に臨て深淵あり。去夜寒風枕を吹く。**咳病忽ち発る。心神甚だ悩む。**」



32

中辺路

出発点：田辺市内
「右きみい寺 左くまの道」

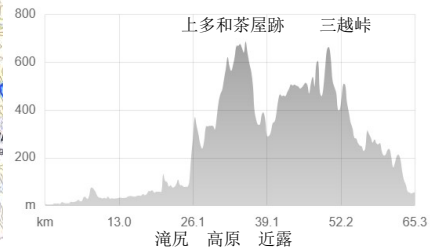


<中辺路>



中辺路（紀伊田辺～本宮大社）
2023年8月12日、9月17日～19日

🕒 タイム 27:08
📏 距離 66.8km
🏔️ のぼり 3117m
📉 くだり 3068m



yamap

34

稲葉根王子（三番目の五体王子）

- 12日目昼（中辺路1日目）。定家は9日目。
- 紀伊田辺から12km。富田川にはじめてぶつかる。そのほとりにある。これから富田川を何度も渡りつつ、本宮へ向かう。
- 定家「次で稲葉根の王子。此の王子、五体の王子に準ず。毎事過差と云々。御幸の儀、五体の王子に同じと云々。」
- 定家は上皇より先に進んでいて、「昼養の宿所に入る。馬、此所より停め、師に預け置く。是より歩みて、石田河を指して入る。」
- 私も定家とほぼ同じ場所で、コンビニのおにぎりで昼食。



35

富田川沿い



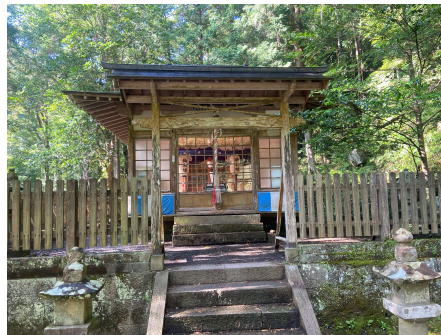
定家「河の間、紅葉浅深の影、波に映ず。景気殊に勝る。河の深き処、股に及ぶ。袴を褰(か)かげず云々」



36

滝尻王子（四番目の五体王子）

- 12日目の最後。定家は9日目最後。
- 広い境内と大きな祠。ここが本格的登山の入り口となる。
- 定家「次で**崔嵬險阻**を昇りて、滝尻の宿所に入る。河瀬の韻、巖石を犯すの中なり。」
- 当然、歌会「夜に入りて、題を給わる。
(使の者、遅参と云々)。即ち之を詠み、持ちて参す。例の如く、披講の間に参入。読み上げ了りて退出す。」
- 二首詠んでいる。「旅宿の冬月
たきがわのひびきはいそぐ旅のいほを
しづかにすぐる冬の月影」



37

滝尻から本格的登り

- 14から15日目。定家は9日目続き。
- 本宮までの最高点は、約700m。
- 定家「一寝の後、**輿に乗る（師沙汰するの力者十二人、あらかじめ之を示し付く。略）**。今夜、昼養山中の宿に付く。此の所又不思議奇異の小屋なり。**寒風甚だ耐へ難し。**」
- なんと滝尻に泊まらず、ひと眠りした後、さらに上へ行く。さすがに、馬も使えず、歩くのもつらく、初めて「輿」を使う。



38

牛馬童子像

- 15日目（中辺路3日目）。定家10日目。

- 近露王子の手前、箸折峠にある。

高さ50cmほど。

牛と馬に跨る童子。花山法皇の姿という。

- 花山法皇：安和元(968)年～寛弘5(1008)年

皇位を追われてわずかな共を連れて熊野へ。ここまで来た時、食事をしようとしたが、箸がない。供の者が茅を折って箸代りとした。茅の茎から血のようなものが落ちたので、上皇が「これは血か露か」と尋ねた。



39

近露王子

- 15日目昼。定家は9日目。

- 五体王子に準ずる大きな王子。日置川を渡ったところにあるが、御所は、その手前。

- 定家「次で山を超えりて、近露の宿所に入る。滝尻より此所に至りて、**崔嵬陂池(ひち)、目眩(めまい)軋し、魂恍々たり。**昨日河を渡りて、足聊か損ず。仍て偏に輿に乗る。」

- そして歌会。題を給わり、二首。ただこの時の講師は、定家ではなく、左中將の藤原長房であった。「驚きて即ち持ち参ずるも僻事なり。」



40



41

発心門王子（最後の五体王子）

- 16日目昼。定家は11日目。

- 「発心門」は、聖域への入り口を意味する。ここから本宮のエリア。

- 定家「次で発心門。此の王子の宝前、殊に信心を欲す。(略)。深山樹木多し。」長々と風景を描写。「尼の南無房の宅に宿す（この宿所、尋常なり。略）」と記して、気持ちの高揚した定家は、ここで初めて、その家の壁に落書きをする。七言絶句。

恵日光前懺罪根 恵日の光の前、罪根を懺い

大悲道上発心門 大いなる慈悲の上の発心門。

南山月下結縁力 熊野の月下、結縁の力

西刹雲中吊旅魂 西の雲中に、旅魂を吊う。



42



43

熊野本宮（世界遺産）

- 16日目（中辺路3日目）到着。定家は10日目。
- 熊野川の河原にあったが、明治22（1889）年の大洪水によって、こちらに移転した。
- 定家「山川千里を過ぎて、遂に宝前に奉拝す。**感涙禁じ難し。**」
- たくさんの行事があり、これを細々と記す。そして感涙の思いは、長くは続かない。「**咳病殊更に発る。為す方無し。心神無さが如し。**」。その後も行事が続く、歌会も。日記には歌を記さない。詠んだとされる歌もあるが、ここで詠んだのかどうかは不明。
- 翌日も行事が続くが、定家はほぼ欠席。一度出席するも、正装していないことに気づくなどの失態。



44

熊野川下り（世界遺産）全34km、現在は後半17km

- 17日目10:00発、11:20着。
- 定家は14日目早朝発、午後2時頃。
- 私の時は、一艘に、客8人、ガイド、船頭の10人で、二艘。一艘は外国人のみ。一艘は日本人のみ。
- 定家「天明、宝前を拝す。河原に出でて船に乗る。（充て給う所に一艘を加う。私に三艘併せて四艘）（略）。川の程に種々の石等あり。（或は権現の御雑物と称す）。



45

川下り中の滝、岩



布引の滝



なびき石

46

熊野速玉大社 (世界遺産)

- 17日目到着。定家14日目。
- 河原からあがってすぐ裏口側にする。
- 定家「先ず宝前に参ぜしめおはします。(略)。御奉幣本宮の如し。(略)。私に奉幣。稠人例の如し。(略)。次いで例の如くに乱舞。次で相撲あり。此の間、宿所に退下(たいげ)す。」
- その後、また歌会があったが、定家は疲れ切ったのか、歌を記さず。「例の和歌詠りて退下する。」

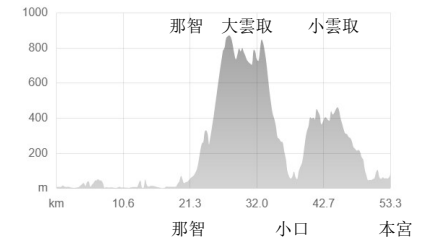


47



中辺路 (新宮~那智~本宮大社) 2023年9月20日~23日

🕒 タイム 22:48
📏 歩距離 54.4km
📈 のぼり 2872m
📉 くだり 2795m



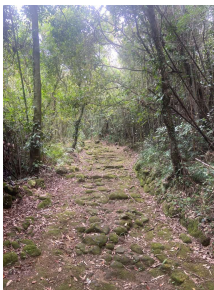
yamap

48

新宮~那智

- 全体14kmほどで、中辺路唯一の海岸線。ただし、その中に、高野坂、小狗子峠、大狗子峠と古道が残る部分がある。
- 18日目から19日目。定家15日目。
- 定家「遅明に宿所を出て、又道に赴く(興を持ち来る。略)。山海の眺望、興無きにあらず。此の道に又王子数多御座す。」

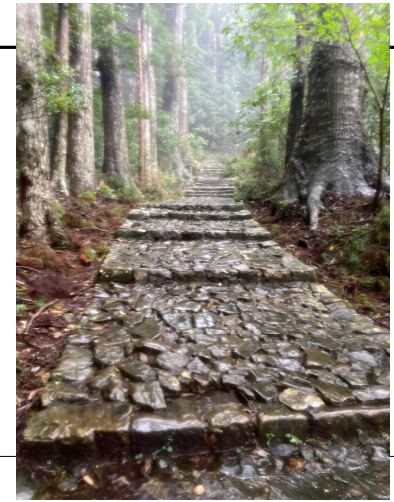
高野坂 (世界遺産)



49

大門坂 (世界遺産)

- 18日目。
- 那智从那智の滝へは約7km、400m登る。
- その中に、全体に石を敷き詰めた大門坂がある。中辺路の中のシンボリック的存在。苔むした石畳と樹齢800年を越す大杉の中は、神聖な空間で、約1km。日本の道百選。
- 定家：何も触れず



50

熊野那智大社 (世界遺産)

- 18日目着。定家15日目。
- 本来、滝をご神体とし、滝の前にあったが、仁徳天皇5（317）年に、現在地に移り、熊野夫須美大神を主祭神とするようになった。
- すぐ横に「青岸渡寺」がある。江戸時代末まで、一体であったが、神仏分離によって廃止され、1874年、青岸渡寺として、復活した。西国三十三所巡りの第一番である。
- 定家「未の時、那智に参著す。先ず滝殿を拜す。」感想は何もなく、その後グチをこぼすのみ。疲労もピークか。



51

那智の滝 (世界遺産)

- 那智川中流にかかる。
- 滝壺までの落差133m。一段の滝としては、日本国内第1位。（択捉島のラッキベツの滝が落差140mで、本来はこちらが1位）。
- 総合落差では日本12位。
（1位：富山県の称名の滝）
- 飛瀧神社の御神体となっている。

52

大雲取越 (世界遺産)

- 那智大社から本宮まで、二つの山を越える。
 - 大雲取 14.5km、標高差約900m
 - 小雲取 13km、標高差約500m
- 19日目。定家15日目。
- 定家「天明、風雨の間、路窄く、笠を取る能わず。蓑を著く。奥の中、海の如く、埜(の)の如し。終日険阻を超ゆ。心中夢の如し。未だ此の如き事に遭わず。雲トリ、紫金峯に立つが如きか」



53

越前峠 中辺路最高点 870M

土屋文明

- 1890-1990
- 熊野を愛し、生涯に8回訪れた
- 1925年、斎藤茂吉とともに、雲取り越えを通過。
- 「奥の中 海の如しと嘆きたり
石を踏む 丁(よぼろ)のことは伝えず」



54

小口

- 19日目着。
- 「小口自然の家」という公共の宿だけがある。ここに泊まれないと一気に本宮まで行く必要がある。宿泊者約30名中、日本人は一人だけ。あとはほぼ欧米人。少数のアジア人。
- 定家「山中只一字の小家あり。右衛門督の宿なり。予、相替りて、其所に入る。形の如くに小食したるぬ。又衣裳を出す。」



55

小雲取越 (世界遺産)

- 20日目。
- 定家「只水中に入るが如し。此の辺りに於て、適々雨止み了る。前後不覚。戌の時許に本宮に著き、寝に付く。此の路険阻、過ぎ難し。大行路に於て、違(いとま)記する能わず。」

戌の時：午後8時頃



百間ぐら。本日の最高点。

56

熊野本宮大社

- 大斎原 (おおゆのはら)

旅(歩き)の終わり



57

付録

熊野参詣 古人の記録

平安～鎌倉時代

- 増基(ぞつき)法師『いほぬし』(庵主)
10世紀半ば、紀伊路、中辺路、伊勢路
- 藤原宗忠『中右記』
天仁2(1109)年10月、紀伊路、中辺路
- 後白河上皇『梁塵秘抄』
1回目 永暦元(1160)年、紀伊路、中辺路
- 藤原頼資『修明門院熊野御幸記』
承元4(1210)年、紀伊路、中辺路

室町～江戸時代

- 河合曾良『近畿巡遊日記』
• 元禄4(1691)年、小辺路、新宮、那智、本宮
 - 鳥居源之丞『熊野道中記』
• 享保7(1722)年、紀伊路、中辺路、伊勢路
 - 熊代繁里『熊野日記』
• 安政6(1860)年、
- ### 近代
- 若山牧水『熊野奈智山』
• 大正7(1918)年、那智
 - 斎藤茂吉『遍路』
• 大正14(1925)年、那智～本宮

59

藤原宗忠 『中右記』

藤原宗忠

- 中御門右大臣。最終従一位、右大臣。
- 康平5(1062)年～永治元(1141)年
- 中右記：本人『愚林』
寛治元(1087)年～保延4(1138)年、52年

熊野参詣

- 天仁2(1109)年10月
- 当時正二位。初めての熊野詣。息子連れ。
- 出発から10月17日、宮原までの記述は欠落。(出京推測10月11日)
- 中辺路を通り、10月25日、本宮。
- 川下り、新宮、10月27日、那智。
- ここから同一ルートに戻る。川上り。難航。
- 11月10日、帰京。

60

補陀落山寺 (世界遺産)

- 那智駅前にある天台宗の寺
- 浜の宮王子と一体であったが、神仏分離
- 補陀落渡海の出発点
 - 南海の彼方にあると信じられていた浄土を、この住職が生きながらに目指す
 - 貞観10(868)年～享保7(1722)年まで20回実施。
 - 井上靖短編小説「補陀落渡海記」
 - 講談社文芸文庫 2000
 - 右は平成5年に作られたもの



61

神倉神社 (世界遺産)

- 速玉大社の西500m、速玉大社の前身で、創建は128年頃
- 日本書紀巻三神武天皇の項
熊野の神邑に到り、即ち天磐盾に登る
- 熊野権現が最初に降臨した場所
- ゴトビキ岩がご神体
ゴトビキはヒキガエルの意の方言



62

主要参考文献

熊野古道関連

- 『熊野古道』小山靖憲 岩波新書 2000
- 『熊野まんだら街道』神坂次郎 新潮文庫 2000
- 『熊野古道を歩く』高木徳郎 吉川弘文館 2014
- 『熊野古道公式完全ガイドブック 紀州和歌山県版』2006
- 『熊野古道 巡礼の旅』高森玲子他 説話社 2017
- 『世界遺産「熊野古道」』伊勢・熊野巡礼部 メイツ 2022

藤原定家関連

- 『明月記 第一』藤原定家 国書刊行会 1970
- 『訓読明月記 第一巻』今川文雄訳 河出書房新社 1977
- 『藤原定家の熊野御幸』神坂次郎 角川ソフィア文庫 2006
- 『定家明月記 私抄』堀田善衛 ちくま学芸文庫 1996
- 『藤原定家熊野詣旅日記』（巻物、イラスト旅日記、出版社不明）
- 『中右記 躍動する院政時代の群像』戸田芳美 1979

日本歴史旅④ 熊野古道を歩く

—その2 大辺路、伊勢路—

2024年末刊行予定

古人が何を考えどう歩いたか調べ、その跡をたどる
古道歩きはいかが

ありがとうございました

長田 格 kaku.Osada@nifty.com

日本歴史旅④ 熊野古道を歩く

—その1 紀伊路・中辺路・小辺路—



2023年末
刊行済